

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム 愛心(南棟、北棟)		
所在地	〒812-0858 福岡県福岡市博多区月隈6丁目16番11号 TEL:092-503-9008		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果確定日	平成25年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護理念「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」をスタッフが理解し実践している。施設は純和風な作りとなっており、居室は畳部屋にするなど高齢者の方が心地よく生活できるような環境を整えている。スタッフは、ご利用者様本位のサービスを提供することを目標としており、日常生活においてはご利用者様の個々の生活ペースを把握し、起床、食事、入浴時間においては固定せず、可能な限り希望通りのサービスが提供できるよう配慮している。また、入居者の皆様が退屈しないようレクリエーション、行事に力を入れており、ご家族をお招きしての敬老会、母の日会や芝居観劇、初詣など実施している。そして、地域交流にも力を入れ、近隣の保育園、小中学校との交流会や体験学習を受け入れたりしている。毎年開催している夏祭りでは、地域の方に開放し多くの方にお越しいただいており、地域に貢献できる施設を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosvoCd=4070900875-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成25年10月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念『楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に』のように、身支度を整え化粧をした入居者が、午前中はスタッフと共に食事を作っている。手慣れた動作で包丁を使って野菜を切る、芋の皮をむく、和え物を小鉢に盛りつけるなど、各々のできる部分で作業している風景が見られる。サポートするスタッフの言葉かけも穏やかで笑い声があちこちで聞かれる。居室の格子戸を開けると畳が敷かれており和風の雰囲気やが漂い、入り口の表札が『我が家』の雰囲気を出している。生活のペースは本人に合わせており食事や入浴時間は固定していない。午後のレクリエーションは、前部署から移動してきたスタッフの工夫でバリエーションが広がった。スタッフは自分の担当者の1ヶ月の様子を、ご家族に手紙で知らせたり訪問時にお知らせするなどして、入居者と家族が繋がるように心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の介護理念を掲げている。スタッフは毎日、始業前に確認すると共にスタッフ同士、介護理念を共有し日常業務にあたっている。	「楽しく・美しく・いつまでも」という理念に「地域と共に」を追加している。理念はスタッフルームに掲示し、業務開始前に目を通して確認している。女性入居者と女性スタッフが多いため、「美しい」には特にこだわっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、近隣の小学校と交流会を催したり、敬老会などの地域行事に積極的に参加している。また、法人で開催する夏祭りには、沢山の地域の方にお越しいただき楽しんでいただいている。	法人主催の夏祭りには入居者も一緒に参加し、地域の運動会やソフトボール大会にはスタッフが参加している。小学校との交流では、ホーム玄関前のプランターの花の植え替えが恒例行事になっている。年2回の町内清掃では、施設内の駐車場を入居者と一緒に清掃している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談できる場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の活動や取組、利用者の状況について報告している。その中で、委員の方から意見やアドバイスをいただき、そこからホームのサービスの向上へ繋げている。	民生委員や包括支援センター職員、入居者及び家族等の関係者出席のもと2カ月に1回開催している。事業所活動内容や入居者の状況の報告、特に行事については家族や地域の方の参加も呼びかけている。10月の会議では避難訓練について詳しく説明したとのことである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。事業所の状況を報告したり、施設の夏祭りや敬老会などにも出席いただき日頃から交流を図っている。	運営推進会議では包括支援センターから地域の様子を報告してもらい情報共有を図っている。また近隣に法人の介護相談センターを設置しており、地域からの相談等で必要な場合は包括支援センターに相談している。施設の行事にも参加してもらっており、協力関係が築けるように交流を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針として身体拘束は行っていない。また、身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフが閲覧できるようにしている。施設内にて定期的に職員研修も行われており身体拘束について学ぶ場を設けている。日中、玄関等の施錠は行っていない。	身体拘束廃止の理解を深めるために、外部研修にも参加するが、月1回の法人内部研修では、講義だけでなく問題を出すなどして個々のスタッフがしっかりと理解できるよう工夫をしている。スピーチロック(言葉による拘束)についても互いに注意できるような関係ができています。玄関には鈴がついているため、出て行こうとすればすぐにわかるのでさりげなく声をかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフは施設内の職員研修にて高齢者虐待防止について学ぶことができる。万が一、スタッフが虐待へと繋がるような対応を発見した場合は迅速に対応している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフは施設内研修において成年後見制度・日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けている。また、家族からの希望があれば、申請手続きに関して支援、協力している。	施設内部研修を行ったり、現在制度の利用をしている入居者がいるので、スタッフは制度等について理解できている。また、家族からの相談にも素早く対応ができています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間をとって説明を行っており、説明不足がないように配慮している。また、不安や疑問点などはないか確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な担当者会議・運営推進会議などにて、御本人や御家族から意見を聞く機会を設けている。また、面会時などにおいてもコミュニケーションをとりながら要望などがどうかお聞きしている。	毎月担当者が、1カ月の具体的な様子を知らせる手紙を家族に出している。認知症状の理解を深めてもらう為にも効果がある。また、半年に1回の担当者会議において家族の要望を聞いている。外出したいという希望があったので計画して実行している。博多座に行ったりしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員が意見を述べる場を設けている。その他、希望に応じ意見を聞く機会を設け日頃から業務の改善を図っている。また、年に一度代表者へ対し、アンケートを実施している。	毎月のミーティング等で、スタッフは各ユニットの主任へ、主任は管理者へと意見が伝わる仕組みである。また、年1回法人の理事長との育成面接があり、個人の希望なども話せるようになっており、風通しの良い職場を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と代表者が個別に面接する機会を設けている。日頃から、職員がやりがいをもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、個別面談にて決定しており年齢、性別等の制限は設けていない。また、スタッフ能力、経験に合わせ積極的に外部研修に参加する機会を設けている。	ヘルパー2級以上の資格を有する職員を採用している。介護福祉士もいる。また、本人の希望で施設内からの移動も受け入れたところ、前部署の経験を活かしてレクリエーション内容が充実した。年齢も20代から50代と幅広いスタッフが勤務しており、個々の強みを活かせるように管理者や各ユニットの主任たちは工夫している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	職場内研修にて、人権、接遇等に関する勉強会を定期的で開催している。また、日頃より入居者に対する言葉遣い等について気を配るよう促している。	機会があれば外部研修参加を呼びかけるが、高齢者を敬う気持ちを持って接することができるように言葉遣いや挨拶などの接遇については、定期的に職場ミーティングで勉強会を行っている。また、気軽に注意できるような雰囲気を作っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員勉強会を開催している。また、能力や経験に合わせ外部研修に参加し、スキルアップの機会を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修、交流会等へ積極的に参加させ同業者と交流する機会を設けている。また、他施設からの実習受け入れ等も要望があれば受け入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、御本人より希望・不安についてお聞きしている。また、不安については特に注意し声かけ方法など配慮している。サービスを安心して開始していただけるよう信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず御家族と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。御家族とよく話し合いを行い、信頼関係の構築に努めるとともに、当施設がどのような施設であるかを理解していただくよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の御本人や御家族との面談の中でどのような生活を望んでいるのかを把握するよう努めている。その中で、当施設で提供可能なサービスについて説明し、納得されたうえで入居いただいている。御本人や御家族の希望するサービスが提供できない場合は、他の事業所を紹介する場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは、野菜を切ってもらったり、食事の盛り付けをお願いしたりと、御入居者様の力を借りながら共に生活している。スタッフは、1人1人に合った個々の力を大切に支援するようにしている。また、家庭菜園を作り御入居者様のアドバイスを受けながら一緒に野菜を育てている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日会や敬老会等の行事の際に、御家族をお呼びしたり、可能な場合は御家族の方に外出支援への参加をお願いしたりしている。また、面会時や毎月担当職員から御入居者様の近況報告の手紙や写真を送り、御家族との情報共有に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や美容室などについて、御本人様や御家族の希望を優先している。また、馴染みの場所への外出希望等があれば実現できるように対応している。	入居前のかかりつけ医に継続して受診したいとの希望や行きつけの美容室へは、近くなら送迎の援助も行っている。また、馴染みの場所への外出は御本人だけでなく御家族にも参加してもらって実現でき、御家族がとても喜んでくれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、日頃から御入居者間の人間関係を把握し、入居者間のトラブルを未然に防ぐよう努めている。また、レクリエーションや食事作りなどを通して入居者同志で連携し協力していけるよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のために退所された方についても、スタッフがお見舞いに行ったりして交流を続けている。また、退所された方から併設の特養への入所希望があればご案内している。特養へ入所された方については、仲の良かったご入居者様とスタッフが特養を尋ねたりして交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフは、日頃より御本人様や御家族との会話の中で、希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。また、外出の希望がある場合は、御家族と相談し、個別支援にて対応している。	入所が決定した際、アセスメントをとり、入居者と家族等からの希望や意向を聞き取っている。また、入所後も意向を聞くようにしている。今まで、外食の希望や、お芝居を見に行きたいという希望があがっており、実行に移している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフは、日頃より御入居者様1人1人の生活歴や趣味・好みや御家族からの情報を参考にすると共に、情報収集に努めサービスの向上に努めている。スタッフ同士、情報の共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは、日頃よりおひとりおひとりの生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細かな表情を気にかけて様子観察をし、体調悪化を未然に防ぐよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、ケアマネジャーや担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに、担当者会議にて御本人様や御家族の意見を受け、御本人が安全にかつ安心して希望する生活を送れるための介護計画の作成に努めている。	担当スタッフとケアマネジャーでモニタリング会議を行い、ケアマネジャーが介護計画を立てている。なるべく入居者や家族の意向も取り入れるようにし、例えば「足が痛いとの訴えがあるので、湿布を貼ってほしい」との要望があれば、介護計画に取り入れている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、キーワードを基に、日常の様子など細かい点についても記入するように努めている。また、記録だけでは伝わらない点については毎日申し送りを行い、口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い、解決するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な面会時間を設けてはいるが、時間外の面会についても柔軟に対応している。美容室・買物・外食・芝居見物などの外出支援についても定期的に行っている。また、年2回施設全体の県外へのバスハイクも行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の馴染みの病院や美容室・スーパー等を把握し、入居後も引き続き利用できるように支援している。入居したことにより地域との関係が途切れないように配慮している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、御本人様、御家族に意向を伺い、希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながら御入居者の健康の維持を図っている。また、訪問歯科回診も行っている。	かかりつけ医に通っている利用者もいるが、入居者の半数以上は訪問診療を受けている。遠方の場合、通院を家族にお願いしているが、送迎ができる範囲であれば、職員が同行している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配置されていないが、急変時の対応や感染症の予防など、また必要な場合は、併設の特養の看護師に相談し助言を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、定期的に病院を訪れ看護師やソーシャルワーカーから話を聞き、治療の経過・入居者様の状況などについて情報を得ている。また、スタッフは日頃の受診付添の中から医師や看護師との関係作りを努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学や入居希望の問い合わせ・入居契約時に施設で出来ることと出来ない事について御本人様や御家族に必ず説明し納得していただいている。重度化した場合は、主治医に相談し、連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。万が一、当施設で生活が続けられなくなった場合、他施設や病院等と連携をとり受入先を探している。	看護師が常駐していないこと等から、現在はターミナルケアは行っていない。また、同敷地内に法人内の特別養護老人ホームがある為、グループホームでの生活が続けられなくなった場合は、家族と相談をし、併設の施設や他の施設への受け入れを依頼している。その為、管理者は他の病院や施設等と連携をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各項目でマニュアルを作成している。全スタッフは対応について理解している。施設内にて定期的に研修があり学ぶ場を設けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害対策について施設内にて研修があり学ぶ場を設けている。また、当ホームにて火災訓練を実施している。日頃から地域との交流を図っており、災害発生時は協力し合える関係を築いている。	年に2回、避難訓練を実施している。1回目は、併設施設と合同で昼間を想定して実施、2回目はグループホーム単独で、夜間を想定して実施している。運営推進会議に、消防団の方も参加してもらい、その際に相談やアドバイスをもらっている。	新人は防災センターで、消火器の使い方等を学ぶ機会があるが、その他の職員は消火器について振り返る機会が今のところないとのことであった。万が一火災が発生した際、慌てず初期消火ができるよう、日々の訓練の中に、消火器の使用の方法を学ぶ機会を含むことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中の声かけなどについて、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。また、個人情報の資料は鍵のかかるロッカーで保管している。	法人全体で、月に1回研修を行い、その中に人権尊重やプライバシーについての内容も含まれている。スタッフが入居者に対する言葉遣いにも、十分配慮し、言葉遣いが気になる場合には、個別に注意をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御入居様とのコミュニケーションをとりながら、1人1人の想いを引き出すよう努めている。スタッフは声かけをしながら、御本人様が自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に考慮しながら、御本人様の希望に添えるように心掛けている。また、1人1人の担当を決め、コミュニケーションをとりながら、より細やかな支援がおこなえるよう配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や身だしなみなどは、居室や別室をご利用していただいている。希望時は、行きつけの美容室への外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に野菜を切ったり盛り付け・片づけ等を行っている。また、個々に合わせたメニューを考えたり、食べやすさに考慮している。スタッフは、御入居者様と同じテーブルと一緒に食事をしている。	訪問当日、入居者が野菜を切ったり、もやしのヒゲをとったり、おかずを盛り付けする等各々手伝いをされる様子を見学することができた。担当スタッフが決めた献立を、スタッフ間で検討し、併設の特別養護老人ホームの管理栄養士に、カロリーやバランス等をチェックしてもらっている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が不足しないように毎食チェックし把握している。不足している場合などは、補助食品や御本人の好みに合わせ提供するように努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・介助を行っている。義歯については就寝前にお預かりし、洗浄を行っている。また、週2回の訪問歯科回診があり、相談しながら口腔内の清潔に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄習慣を把握し、ご入居者様がストレスがなく排泄が行えるように声かけ・介助している。介助の際は、出来る限り残存機能を活かし自立に向けた支援を行っている。	必要な入居者は、排尿・排泄について記録を残している。夜間はポータブルトイレを使用している方はいるが、日中はトイレでの排泄を誘導しており、オムツ使用者はいない。しかし、パットを使用されている方で、交換が自分で難しい場合には、職員が支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しスタッフ全員で確認をしている。便秘が続かないよう水分(水・牛乳)など多めに摂取していただくよう声かけしている。また、便秘が続いた場合は主治医に相談するなどして改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人様の体調を考慮しながら、希望に合わせて(時間帯など)入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法や時間帯・スタッフの交代など工夫をし、入浴していただけるよう努めている。	毎日、14時から16時30分位まで入浴時間とし、2人～3人が入浴している。入居者が全員女性であるため、今までは女性のスタッフが介助をしていたが、ローテーション等の関係から男性のスタッフも今月から介助に入るようになった。しかし、どうしても女性のスタッフを希望する入居者は、要望を受け入れている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様の体調に考慮するとともに希望に沿って休憩していただいている。夜間不眠の訴えがあった場合は、傾聴を行い、温かい飲み物を提供するなどし対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送りを行っている。また、変更の情報も共有するよう努めている。体調の変化には充分注意し、変化がみられた場合は主治医に相談し薬の調整など行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理(食材切り・盛り付け・片づけなど)・園芸・外食・歌など、毎日の生活が退屈にならないよう配慮している。また、体操・生花・陶芸などの教室を催し趣味活動を続けていただく様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に花見や芝居観覧に外出している。また、買物や散歩・外食など個別支援を行っている。半年に1度の遠方へのバスハイクなどは家族の協力を得て一緒に外出もしている。	通院の帰りにスーパーに寄ったり、近くを散歩する等、日常的に外出ができるように支援している。また、天気がいい日は、屋上で職員手作りのお弁当を食べる等工夫している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設で預かっているが、御本人様が希望された場合は、お金を所持されている。外食や買物の際など御自分でお支払いをしていただくよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、御家族や御友人に電話をかけていただいている。年始には御家族に年賀状を出していただくよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内のディスプレイに季節感を取り入れて心地よく過ごしていただけるよう配慮している。また、テレビやCDの音楽の音量・室温や光など細やかな部分についてもストレスとならないように気を配っている。	日中入居者はほとんどリビングに多くのことが多く、できるだけ心地よく過ごしていただけるよう、職員はなるべくバタバタしないよう心がけている。また、リビングの窓から西日が入る為、なるべくカーテンで光を遮るように注意を払っている。	トレイは各居室ではなく、各ユニットに2か所ずつ、共有のトイレが設置している。トイレの中に、掃除用具を洗う洗面所もある為、掃除用具がトイレ内に置いてあった。入居者が快適に用を足せるよう、掃除用具を別の場所に移したり、見えないようにすることを望みません。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。日向ぼっこや散歩・談話など仲の良い御入居者様同士で過ごしていただけるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具や調度品・趣味の物など取り入れ、自由に御自分の部屋を使用していただいている。また、安全面も考慮し安全バーなどを設置している。	火災の原因にもなりえるストーブは持ち込みを断っているが、それ以外は自宅で使用していた家具等を持ち込み可能としている。居室も全ての居室が畳の部屋であり、落ち着いた雰囲気であった。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御入居者様ひとりひとりの生活ペースを把握し、個々の動線上に事故に繋がるものがないよう配慮している。また、居室などにおいても事故を未然に防ぐための環境作りに努めている。		